住民参加型景観形成支援プロセスに関する研究

神戸市岡本地区を事例として

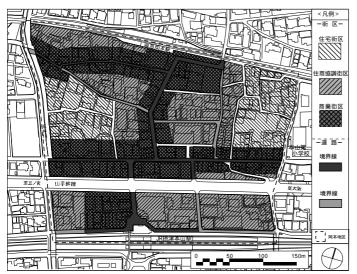
建築計画分野 大野 晃

1.研究の背景及び目的

近年、住民のまちづくりへの関心が高まるとともに、 住民自らがまちづくりに参加し、取り組むことが多く見 られるようになってきた。住民参加型でまちづくりが行 われる中、街並み景観においても地域の個性を活かした 景観創出が求められている。その実現には、地域資源を 再認識・再評価し、その上で地域に関わるさまざまな立 場の人々が地域らしい景観について共通のイメージを 共有し、合意を形成することが重要となる。しかし、あ らゆる立場の人間が関わる地域において合意形成を図 ることは容易ではなく、その方法も確立されていない。 我々は神戸市東灘区岡本地区(以後、岡本地区)で活動 する協定・景観誘導ワーキング部会^{注1)}(以後、W部会) に参加し、地域らしい景観の創出するための議論を進め る中で、地域資源を再認識し、地域の景観イメージの共 有化を図るための景観形成手法として、「キャプション 評価法による景観調査注2)」および「レンダリング画像 を利用した景観誘導ルール作成注3)」を用いた支援活動 を行ってきた1)。本研究では、これらの支援活動を一般 住民へと展開し、地域らしい景観創出と合意形成を目標 とした一連の景観形成支援プロセスを通して、これらの 手法の有効性を明らかし、また住民参加型景観形成支援 プロセスにおける新たな課題を探ることを目的とする。

2. 岡本地区の概要

阪神間に位置し、神戸三宮、大阪梅田と阪急及び JR 東海道線で結ばれている。阪急岡本駅と JR 摂津本山駅



岡本地区の都市景観形成地域図

が隣接するという交通の利便性を活かし、神戸市東灘区 の山手文教住宅地域の近隣生活の中心として、お屋敷ま ちの中に商業施設が立ち並ぶ地区である。また住民主導 でまちづくり活動を行っている先進的な地区であり、神 戸市都市景観形成地域に指定され、景観形成基準も定め られている(図-1)。 岡本地区は、神戸市東灘区岡本1 丁目、5 丁目の一部、本山北町 3 丁目の一部からなり、 面積約10.8ha、人口約1500人である。その用途地域は、 第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、 第一種住居地域、近隣商業地域で構成されている。

3.研究の方法

本研究では、岡本地区住民に対し、景観調査結果およ び調査結果をもとに作成した景観誘導ルール内容をワ ークショップ等の場で呈示し、議論を交わすとともにそ れらに対する評価を得て、またその評価を考慮に入れ、 新たな景観誘導ルールを作成・呈示するというプロセス を行った(図-2)、景観調査は、大阪市立大学大学院生、 甲南大学・甲南女子大学学生および地区住民・地区関係 者の3つの属性を参加者としている。

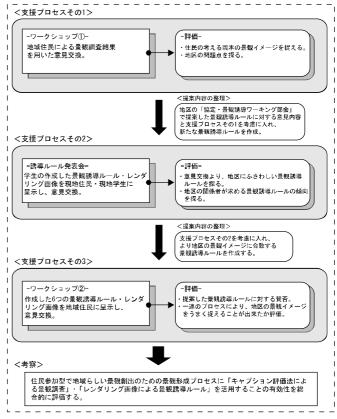


図-2 景観形成支援プロセスのフローチャート

4. 景観形成支援活動とその評価

図-2に示す支援プロセスその1~3の内容を概説する。 4-1. 支援プロセスその1

岡本地区を生活圏として利用する地域住民 14 名を参 加者として第 1 回おかもとまちづくりワークショップ (以後、WS)を開催した。WS では、参加者を4つの 班に分け、事前の景観調査において参加者それぞれが作 成した景観カード(図-3)をもとに岡本地区の景観イメ ージについて班内で議論し、その後、各班で共感できた 景観カードを「良い景観」・「良くない景観」を各5事例 ずつ選定し、その結果を班の代表が発表するという流れ で行った(図-4)。各班に一人ずつ学生が付き、議論の 方向性がずれないように補助した。各班で共感された景 観カードをみると、「良い景観」では、「季節感の感じら







図-3 景観カード記入例

図-4 WS の様子

表-1 支援プロセスその1のアンケート結果

	1	2	3	4	5	参加省	7	- 8	9	10	11
	がまります。 がまりません。 がないがまりません。 がないではいました。 がないである。 がないできるがない。 がないできる。 がないできる。 がないできる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。	自街目でまた事おか段の調にてとででした。 はまた、違見きろ。なむをい今っる、 善い	楽せ参人ルおた景スあから、したかくのど。観はるらいであるの性。大いでは、大いでは、一でれた。	人の印象に は思いのほ か共通点が あるものと	地元の方が 考えている 岡本の景観 がよくわ	だいたいみ んな好まし	よかった。	議論の経過 が模造紙の 上にあらわ れてこない のは非常に	20年年では、10年には、10年に	岡本地区の 良い所、悪い所を再発 見できて良かったと思	地元に住 でいて、 めて岡本 見直す事
質問2	の視点が違 う所もあれ	頼りで、な んとなく気 弱になって	のレベルが 落ち、遊ん でいる印象 を持ってい たが、本日	から考えある 理想は好らの要が必要が必要が というないが必要が必要が必要が必要が必要が必要がある。	(写真撮 影)が時間 的に大変 だった。 最後の調査	けではな く、もっと 住みやすい 街にするよ	つかない良 い悪い所が	賛否両論が あり、地元 住民である からこそわ	それぞれのい 主観あった を も も も も も い い に に い り に い の っ に に い の り に り い り に り り た り り た り り た り た り た り た り た り	地区として ゴミ対策に	り見てい が、今ま から良い
	間はて解すると、 はしにいる はいかん はいかん はいかん はいかい はいかい はいかい はいい はいかい はいい はい は	無回答	開、学会な どを通して 岡本をもっ	町生成く歩でを人両しはすくて成けはてといまい。 かっかい こうじゅう かいない こうじょう はん 楽さい かいない からない こうじょう しょうなん 人もりれでき 思います いっぱい できしょう しょうじょう しょうじょう しょうしょう しょうしょうしょう しょうしょうしょう しょうしょうしょうしょう しょうしょうしょうしょう しょうしょうしょうしょうしょう しょうしょうしょうしょう しょうしょうしょうしょう しょうしょうしょう しょうしょうしょうしょう しょうしょうしょう しょうしょうしょう しょうしょうしょうしょう しょうしょうしょうしょうしょうしょうしょう しょうしょうしょうしょうしょうしょうしょうしょうしょうしょうしょうしょうしょうし	特になし	ているの	て、ある程 度感心をし てくれたら いいと思	明されてな	無回答	人主で同じ場しい。 小の見の追り場しい。 は明しましているのにました。 しているのにました。	無回答
質問4	無回答	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	他の人にも	はい

質問3:ワークショップ後、疑問に感じたところは? 質問4:今後もワークショップに参加してみたいと思いますか?

れる緑や花」「周囲との統一感のある建物」「昔から変わ らないもの」があげられており、住民が抱く岡本地区に ふさわしい景観イメージが読み取れる。また「良くない 景観」では、「路上駐車・駐輪」による危険性や「屋外 広告物の氾濫」が多く取り上げられており、改善すべき 問題点も明確化した。しかし屋外広告物に関しては、う まくデザインすれば、「良い景観」となり得る要素であ るとされている。また、WS では参加者にアンケート調 査(表-1)を行い、支援プロセスその1での経験を通し ての感想を求めた。アンケートの質問項目を表の下部に 示す。その結果をまとめると次の点が明らかとなった。

- ・ 景観カードは、自分の考えを容易に相手に伝えるこ とができ、議論の流れをスムーズにする。
- ・ 他人との意見交換は、自らの意見との共通点や考え の違いを認識させ、景観に対して考える幅を広げる。
- ・ WS での意見交換は、地区の景観に対する意識を向上 させ、今後の展開へとつながる。

4-2.支援プロセスその2

大阪市立大学大学院生(12 名)が作成した景観誘導 ルールとそれに応じたレンダリング画像の発表会を行 った。ここで作成された景観誘導ルール(表-2)および レンダリング画像は、この前年度に作成された景観誘導 ルールを₩部会において紹介し、その場で受けた意見や 得られた評価および支援プロセスその1の内容を、学生 が一通り認識した後に作成している。発表会の参加者は、

表-2 支援プロ	セスその2で提案された景観誘導ルール
コンセプト	ルール
緑が多く落ち着いた雰囲気を活	歩行者と車の境界線が曖昧な道に関しては緑化を最大に利用して境界線を設ける。
	商店の看板は落ち着いた色に統一する。
るような。街にする	公共建物においては、道に面した部分に裏をもってこないようにする。
植栽の積極的利用による、歩い	住・商と周囲の恵まれた自然環境が調和する連続空間を実現するために、通りに植栽・緑花を積極的に施す(ただし歩行者に圧迫感を与えるような植栽は禁じる)。
て楽しめるまちの創出	道路景観を良くするために街路樹・緑花を適切に配置する。
	駐輪場の整備に植栽を用いる、緑化を行うことで景観を損ねるものを遮蔽する。
	商業地区において、建物の2階以上の部分の後退と、1階部分の壁面の袖看板の大きさと高さを統一する。路上に置くことは原則として禁止する。
コンパクトな人間サイズの大きさ	電柱の地中化あるいは後退。電線の地中化あるいは束ねる。
を強調し、ちょっとお洒落な可愛	可能な限り隣接する建物の壁面線も連続させる。
い街並みを作る。	商業地区において、壁面後退した商店の後退敷地にテントを張り、休憩所、歩道等として扱う。テントの大きさ、色、柄等はコンセプトにより統一し、高さを揃えて連続した 景観を作り出す。
最小限の変更で、現在の自然環	駐車場などの、無機質なコンクリート壁を生け垣に変更したり、壁面を緑化したりする。
境を活かすという方法で、景観の 調和をはかる。	電柱を地中化する。
विभाग दावरा ठः	商店街の看板やテントの色彩を調和する。
街の特色を活かし、住宅と商業	住宅地において、閉鎖的な壁をこの地域の特色の一つである生垣に変更する。また 既存のもの(石積みetc)は有効に利用する。
が一体となった街並みの形成を 図る。	住宅地と商業地をゆるやかにつなくために、住宅地に見られる景観要素である石積みを商業地に用いる。この景観要素にはこの地区にあまり見られない休憩所的な機能を持たせるものとする。
屋外において、〈つろ〈空間の少	公開空地をゆとりスペースとする。
ない住商混在密集地域をゆとり のある街にする	自然をよく感じ取れる空間を設ける。
	道路沿いを緑化し、通りに連続感を与える。
統一感と連続性のある街並み	自転車駐輪場所と車道の舗装を分け、バラバラに駐輪されている印象を和らげる。
安全を確保し、住宅地と商業地	石畳の大きさの違いを利用し、歩車分離の心理的な効果を図る。
安宝を確保し、任宅地と商業地 の景観を調和させる	景観を乱さないよう、張り紙は禁止する。また、原則として設置型もしくは突出型の広告物は避ける。
街の方針に基づいて形成されて	街へのアクセス手段でもある2つの駅を、街のシンボル的存在となりうるものにする。
きた住宅地・商業地に視覚的な インパクトを加えることで、街全体	
の統一感をもたらす	景観を損ねうるものを直接的に排除し、そこに積極的な緑化を行う。
めぐまれた自然景観と調和する	無機質な印象を受ける大通りは緑化をし、各建物に1つはブランターなどの緑を可能な限り備える。
クリーンなまち	放置自転車を減らすために、駅前には緑化やゴミ箱、イスを設置する。
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	川沿いを適度に緑化し、イスを設けることで景観とわずかなゆとりを持てる空間を作る。
シンプルで夜も楽しい街並み	街並みにおいて景観上不適当と思われるもの(看板、電信柱etc)を撤去する。看板は全て道路に水平な方向に限る。
	夜は電燈を街に増やし、安全で夜も楽いい街にする。
	鎖を排除して公開空地を開放的にする。
ゆとりと品格のある空間を持つま ち	公開空地にはベンチを置き、休憩などをすることができる存在価値のある空間とす る。
5	商業地区において、駐輪場は生垣などで隠して道路からは直接見えないようにす る。









図-5 現況(左)と植栽を施したレンダリング画像(右)





図-6 現況(左)と奇抜な配色のレンダリング画像(右)





図-7 現況(左)と地区の個性を活かしたレンダリング画像

岡本地区の住民(5名) 甲南女子大学の大学生(7名) 大阪市立大学大学院生(12 名)であり、提案した景観 誘導ルールに対する評価を得て、参加者属性別の評価の 違いを明確にするために、それぞれの参加者にアンケー トを行っている(表-3)。その結果は、宗意らによって まとめられ、報告されている 2)。その報告内容を以下に まとめる。まず岡本地区住民は「緑化・植栽」を施すこ とをルールの主軸として盛り込んでいるものに高評価 を与えている(図-5)。また「看板を取り除いた画像」 と「植栽により駐輪場を覆っている画像」を用いたルー ルが高評価を得ているのに対し、「建築物に奇抜な配色 やテクスチャーを施している画像」を用いたルールの評 価が極めて低いことから(図-6) 住民は出来る限り最 小限の変化をもって景観を良くするルールが好まれる。 全般的にみると、「緑化・植栽」など地区の個性を活か したゆとりあるルールを好み(図-7)、岡本地区の景観 を住宅地重視の観点から見ている傾向にあると理解で きる。次に、甲南女子大学学生は、普段から通学路とし て利用している岡本地区を商業地として捉える傾向が 強く、多少大規模な変化を伴う景観誘導ルールも受け入 れる傾向があるということが分かっている。また、岡本 地区にあまり馴染みのない大阪市立大学大学院生だが、 地区の特徴である石積みを活用した景観誘導ルールに 高評価を与えている。また岡本地区住民と同様、「緑化・ 植栽」を高評価する傾向がある。初めて訪れた者にとっ て岡本地区は「緑の多い街」という印象が強いというこ とが分かった。

表-3 支援プロセスその2で行ったアンケート項目

	設問内容		強くそう思う		そう思う		どちらでもない		そう思わない		全くそう思わない	
ル	ルールの内容がわかりやすい発表・説明資料だった	-	+	-	+	-	+	-	+	-	+	-
ï	このルールは面白い(実現可能性は別として)	-	+	-	+	-	+	-	+	-	+	-
ル	このルールは岡本地区の景観としてふさわしい	-	+	-	+	-	+	-	+	-	+	-
Jν	このルールは宝現可能性が高い	-	+	-	+	-	+	-	+	-	+	-

発表会の参加者の感想を以下にまとめる。

「レンダリング画像をみると分かりやすい」、「レンダリング画像は決定的である」といった、レンダリング画像の有効性を示すものがいくつか見られた。これは同時に、ルールの良否が画像の出来によって左右されるという問題点示唆している。また、発表されたルールを受けて自らが提案している記述も見られたため、参加者の景観への意識が向上していることが分かる。

4-3. 支援プロセスその3

第2回おかもとまちづくりワークショップ(以後、WS)を開催し、新たに作成した景観誘導ルール・レンダリング画像を地域住民に提案した。ここで提案したルールおよび画像は、支援活動その1、2より明らかとなった岡本地区に求められる景観イメージを考慮に入れて作成した物である。ここで考慮に入れた点をまとめる。

- ・ 緑化・植栽を有効的に活用する。
- ・ 街並みの統一感が好印象を与える。
- 古くから変わらないものが好まれる。
- ・ 路上駐車は見た目の悪さと危険性が問題。
- ・ 屋外広告物の氾濫が問題だが、良い広告物もある。
- ・ 最小限の変化で街並み景観が良くなることを望ん でおり、住宅地としての落ち着きのある景観整備に 期待している。
- ・ 地区の特性である石畳や石積みを保全するととも に、それらを積極的に活用していくことで岡本地区 の個性が生まれる。

これらをもとに、6つの景観誘導ルールとそれに伴うレンダリング画像を作成した(表-4)(図-8~12)。WS では、ルールでの規制が困難である屋外広告物について、レンダリング画像を伴わないが、「イベント開催」で広告物に対する意識を高めようとするソフト面のルールを提案した。WS の参加者に対し、提案した各ルールに

表-4 6つの景観誘導ルール

ルールno.	ルールの内容	具体的手法
1	六甲山への眺望を阻害しないようにす る。	主要な眺望地点や景観道路等からの眺望を阻害する場所への立地は避ける。
2	既挟オる建築物等との連結性を音樂し	景観形成道路に対して 連物は可能な限り、その正面と接するようにする。不可能な場合、 植栽等を効果的に施すことで街路側への景観を配慮するようにする。 つながる通路の舗装は、地区の特徴である石畳の舗装との連続性 を意識したついじする。
3	敷際空間の緑化、および石積みの保存	とに、景観形成道路に面する戸壁住宅等は、道路への景観に配慮し、 敷原の緑化に努める。また石垣は地区の特性として保存する。敷原の 緑化手法として 生垣を積極的に用い、街並みに調和と潤いを与える。 無機質な素材の壁や塀には、ツタなど吸着性のある植物等で潤い をあたえる。 フェンスを設ける際には透過性の素材を用い、敷地内の緑が道路 機より眺められるように配慮する。
4	屋外広告物についてのイベント開催	一年に一度、岡本地区に設置されている屋外広告物を対象として、 「岡本らしい屋外広告物」を選び、表彰する。 賞は地区の住民の投票で決定するものとする。
5	街並み景観との連続性を意識し駐車場の デザインする。	景観形成道路に隣接する駐車場では、街並み景観との連続性を意識 し、 舗装は、石畳舗装と一体感を持たせる。 壁面は、無機質な素材を用いず、緑化するなど潤いを持たせる。
6	時間帯による自動車の進入制限	必要により出し入れ可能な車止めを設置する。周辺住民や業務等で 進入が必要とされる車両は、カードを通すことで進入が可能となる。





図-8 現況(左)とルール1 <u>不適用時</u>のレンダリング画像(右)





図-9 現況(左)とルール2適用後のレンダリング画像(右)





図-10 現況(左)とルール3適用後のレンダリング画像(右)





図-11 現況(左)とルール5適用後のレンダリング画像(右)





図-12 現況(左)とルール6適用後のレンダリング画像(右)ついて「このルールは岡本に必要であると思いますか?」という質問を行い、それを提案した景観誘導ルールへの評価とした。質問に対して、地域住民 10 名の回答を得ることが出来た。その回答結果を表-5 に示す。全てのルールにおいて、岡本に必要なルールであるとしている回答者がその半数を超えていることが分かる。特に肯定者の割合の高いルール2 およびルール3 は、街並みの一体感を生み出す為に地区の特性である石畳や石積み、もしくは植栽を施すといったルール内容である。ルール5 も植栽を盛り込んだルールであったが、回答者の意見をみると、景観のプラス面より、負担される費用に対する危惧が勝っている点が見受けられる。また、比較的肯定者の少ないルール1 は地区の特徴である六甲山

表-5 6つの景観誘導ルールに対する評価

	質問 の肯定者人 数(人)	全回答者 人数(人)	肯定者の 割合(%)
ルール1	6	10	60
JレーJレ 2	9	9	100
ルール3	8	9	89
JレーJレ 4	7	9	78
ルール5	6	8	75
JレーJ レ6	5	9	56

をルールに盛り込んだものであるが、建物の高さや形状の規制が困難であるといった考えや、現状で十分満足であることもあり、不必要感が強くなっている。ルール 6 に関してもルール 1 と同様のことが考えられ、現状で十分であり、ルールを作って規制するまでもないという考えが、肯定者数の少なさにつながっていると思われる。またルール 4 はレンダリング画像を伴わないが、住民の広告物に対する意識の向上が重要であるという意図が十分に伝わり、高評価を得ている。以上の内容より、これまでの岡本地区における支援活動プロセスより得られた知見が正当であったことが分かった。

5.まとめ

「キャプション評価法による景観調査」は、地区の問題 点を明らかにするだけでなく、住民の景観に対する意識 を啓発させる効果があり、後の景観形成活動への参加意 欲を生み出させる。また「レンダリング画像を用いた景 観誘導ルールの提案」をすることで、具体的なイメージ を伝え、意見交換を活発にさせることができる。しかし、 画像のインパクトの強さゆえ、議論の対象をルール内容 ではなく、レンダリング画像の良否に摩り替えてしまう 恐れがある。景観調査結果や景観誘導ルールを現地にお いて提案し、それらに対する評価を受けるといった、提 案 評価 提案というサイクルを繰り返すことで、地区 に求められる景観イメージをより厳選させ、共有させる ことができる。単に同様の提案と評価を繰り返すだけで は、参加者に退屈や飽きといったイメージを与えかねな い。そのため、屋外広告物に関するイベントのような新 しい趣向の提案も有効的である。

補注

- 注1)岡本地区のまちづくり協議会の役員を中心に構成された組織。地区に制定しているルールのより柔軟な運用を目指し、設置された「協定・景観誘導部会」の補足的活動組織。
- 注 2)古賀ら ³⁾ によって開発された景観調査手法。その開発には写真投影法および評価グリッド法が参考とされている。
- 注3)景観誘導ルールは、合意形成に至ることを目標として、まちのコンセプトを考え、そのコンセプトに基づき具体的に設定を行う。レンダリング画像は、ルール適用後をイメージした街並みのモンタージュ画像のことである。

参考文献

- 1) 大野晃ほか(2003.9)「神戸市岡本地区における住民参加型まちづくり支援プロセスに関する研究 その1キャプション評価法による景観調査結果の調査者属性別の比較検討」、日本建築学会学術講演梗概集(東海)F-1、PP.739-740
- 2) 宗意祐典ほか(2004.1)「まちづくりワークショップへの利用を目的とした図形科学教育における景観画像の利用 その3 景観誘導ルールおよびレンダリング画像に対する評価の分析 、日本図学会関西支部(2004)
- 3) 古賀誉章ほか (1999)「キャプション評価法による市民参加型景観調査 都市景観の認知と評価の構造に関する研究 その1 」日本建築学会計画計論文集 No.517 号 PP.79 84